



中国税理士会甘日市支部  
平成30年1月20日 (第135号)

発行人 支部長 星野泰輝  
編集責任者 広報部長 田尾幸二



甘日市市 丸石から撮影

- 支部長 星野泰輝
- 副支部長 青木春好
- 林谷悟
- 杉山謙一郎
- 総務部長 宮地文夫
- 指導研修部長 細川和裕
- 税務支援対策部長 浅井克己
- 調査研究部長 河本雅志
- 綱紀監察部長 黒田実
- 情報化対策部長 福井政夫
- 厚生部長 江口竜哉
- 広報部長 田尾幸二
- 業務会計監事 藤本邦彦

## 新年のごあいさつ



廿日市支部長  
星野 泰輝

平成30年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

支部会員の皆様には、平素より支部運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続き、役員の皆様及び会員の皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

年頭にあたり、廿日市支部の今後の取組について少し述べさせていただきます。

昨年6月6日の支部定期総会において、「廿日市支部事務局開設検討委員会」の委員長及び委員が承認されました。承認されました藤本邦彦委員長、弘下修委員、林谷悟委員、河本雅志委員の先生方には、大変お忙しい中、4回の委員会を開催し、ご検討いただきました。誠に苦勞様でした。心より感謝申し上げます。その中間報告は、12月7日に開催されました支部臨時総会で、ご報告いただきました。『広島地区支部連絡協議会（以下、「地区連」という）加入』につきましては、6月に開催予定の支部定期総会にてご審議いただくこととなりますので、支部会員の皆様のご理解・ご支援をお願いいたします。

今年の廿日市支部には、地区連加入の件以外にも、検討事項があります。

①支部会費の改訂 ②部の統廃合です。これらは、地区連加入の予算確保のため、必要な事項です。②については、各部の部員の登録が減少し、部長や一部の部員に負担がかかっているようであり、十分な活動が行われていないように思います。支部会員の皆様には、積極的に支部活動にご参加いただき、支部を活性化させるためにご協力をお願いいたします。

私の支部長としての任期は、来年6月の支部定期総会までと残り少なくなってまいりました。廿日市支部の今後を思い、地区連加入・支部会費の改訂・部の統廃合を提案いたしました。これらは、支部役員・支部会員の皆様のご指導・ご理解とご協力なくしては成し得ることができません。また、支部運営についても同様です。平成4年3月税理士に登録し、今年26年目となります。初心に戻り、税理士として、顧問先、地域の皆様、税理士業界、そして廿日市支部に少しでも恩返しができるよう、もうひと踏ん張り頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

平成30年が、会員皆様のご健勝と業務のご繁栄そして最良の一年となりますよう祈念申し上げて新年のごあいさつといたします。

## 新年のごあいさつ



甘日市税務署長  
**木村元彦**

明けましておめでとうございます。

平成30年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

中国税理士会甘日市支部会員の皆様には、平素から税務行政全般にわたり、深いご理解と格別のご協力を賜っており、厚くお礼申し上げます。

近年の税務行政を取り巻く環境は、社会経済のグローバル化・ICT化などに伴い大きく変化しており、また、厳しい財政事情の下で、行政の一層の効率化が求められております。

このような状況の下、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という国税組織の使命を果たすためには、社会・経済状況の変化に柔軟かつ的確に対応し、e-TaxをはじめとするICTを活用した申告・納税方法の普及・定着など納税者サービスの充実と努めるとともに、適正な申告・納税を行った納税者の皆様に不公平感を与えないよう「適正・公平な課税・徴収」に努めていくことが重要と考えております。

また、平成31年10月には、消費税率の10%への引上げ及び軽減税率制度の実施が予定されております。

国税当局といたしましては、軽減税率制度の円滑な実施に向けて、事業者の皆様には制度の内容を十分理解していただき、自ら適正な申告・納付を行っていただけるよう、着実な制度の周知・広報や丁寧

な相談対応に努めてまいります。

私どもは、これらの課題に全力で取り組んでいく所存ですが、税務行政の円滑な運営は、私ども国税組織のみでは到底なし得るものではなく、税理士の皆様のお力添えが是非とも必要であります。

今後とも税理士会の皆様と十分に意思の疎通を図りながら、従来にも増して信頼と協調関係を深めてまいりたいと思っておりますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

年も改まり、間もなく平成29年分の所得税、個人消費税及び贈与税の確定申告の時期を迎えることとなります。

本年の確定申告期におきましても、引き続き、自宅等からICTを利用した申告の推進や適切な申告相談体制の構築・運営により、納税者サービスの向上を図るとともに、相談事務を円滑かつ効率的に実施することとしています。

税理士会の皆様には、署申告会場での申告相談をはじめ、確定申告テレフォンセンターへの従事、更には青色申告会等に対する派遣事業など、多くのご支援をいただいているところですが、本年も変わらぬご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、中国税理士会甘日市支部の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

## ❀ 新春特集 年男・年女のひとこと ❀



昭和9年生まれ

**船 倉 博**  
昭和9年7月5日生

### 「僕の42.195km (その3)」

12年前、そして24年前、ここに「僕の42.195km」のタイトルで寄稿させていただきました。いずれも「僕の42.195km」というタイトルであったことだけは記憶しています。だから今回は、(その3)で。

自身の還暦を祝って、早くも24年。ハワイのホノルルマラソン、防府読売マラソン、天草パールラインマラソン、青梅マラソン、地元の宮島クロスカントリーなどに参戦。時にはフルマラソンにも挑戦し、走ることに夢中だった頃が懐かしい。趣味のマラソンが、病院でのリハビリに変わった。ギアを上げてラストスパートとはいかないが、ヨタヨタしながらも無事に人生のフィニッシュラインも越えられそう。

税理士事務所としても創業50年。精一杯走り続けてきた自分を褒めてあげよう。自らへ「あっぱれ!」を贈ろう。

2018年は、戌年。年男のせいか、この齢に関わらず、ふと、「お母さん」のことを想う。母でもなく、おふくろでもなく、この「お母さん」という言葉が大好きだ。そういえば、お母さんはいつも、家事をしながら、森繁久彌の「籠の鳥」を口ずさんでいた。

「逢いたさ見たさに こわさを忘れ 暗い夜道を 唯一人逢いにきたのに・・・」

流行りの曲だったのか、実は深い意味があったのか、謎のままだが、小さな体でまじめで働き者で93年の人生を全うしたお母さんに、そのことを聞く機会はなかった。

そして、そんなお母さんのことを、父はしばしば「あんたが世界で一番いい女房だ」と言っていたことを、子ども心に覚えている。

心の隅にずっと刻まれていた感情だが、こうやって文字にすることで、あらためて、素敵なお母さんであり、父であったことを思う。乾杯!

さあ、平成30年。廿日市出身の未来のスターが入団してくれた広島東洋カーブに、今年こそ日本一を。中国税理士会廿日市支部の皆様にとって、輝かしい一年になりますように。



昭和21年生まれ

**井 上 均**  
昭和21年3月3日生

### 年寄りの神頼み

定年近くまで正月は、故郷の「庄原」で迎えていましたので、初詣は、近くの「丑寅神社」(国幣大社)に参っていました。

過っては、大晦日近くなると雪が積もり、高校生のころまでは、除夜の鐘が終わるころ、親父に連れられて、長い階段の参道を、滑らないように、沢山な人に混じって参拝し「今年も、よろしくお願ひいたします」と、いい加減にお願いしていたと記憶しています。

定年退職した年に、庄原は「空家」となったことで、それ以降は、速谷神社に、正月の運動不足解消を兼ねて、2日・3日ごろ、歩いて参るようになっています。

参拝者は、鳥居の付近まで並び、お年寄りや孫、若い家族では、小さい子供が退屈して、走ったり、騒いだりして正月早々怒られたり、いろいろな人に混じりながら40分くらいかかって参拝します。

信心の薄い、いや、無いと言った方が正確ですが、65歳暮れに「心不全」で、バイパス手術をして、総合病院のベットから、極楽寺方向の山を見ながら、「運よく、助かりました。ありがとうございます。」生きていることをどの神様に告げるでもなく、素直に感謝していました。

それ以来、桜の花、梅雨の長雨、入道雲、山を包む紅葉、霜の朝の空気、道に積もった雪等々、今、このとき、この景色に浸れることの喜びを感謝するようになった気がします。

心臓周りに新品を入れて丈夫になったはずですが、鮎釣りで瀬を渡るとき、石につまずき、水に漬かったり、もう少し飛ぶはずなのにクラブを振っても届いてなかったり、公園一周くらいジョギングできるのにと思っても途中で息切れしたりと、最近、頭で考えていることと体(体力)が一致しなくなっています。

「無理しないほうがいいよ」と、どこからともなく言われているようです。

「七十而従心所欲、不踰矩」

この域には、到底、到達できませんが、今年の初詣は、感謝の気持ちと、もう一回年男が迎えられるよう少しの欲(これが一番曲者ですが)を持って、「元気で、暮らせませうように」と神様に頼みました。

## 新春特集 年男・年女のひとこと



昭和21年生まれ

**大坪 民雄**  
昭和21年12月16日生

### 年を重ねて

私は、若い頃、京都に在職していたことがあります。

その頃、職場の先輩に誘われ、京都近郊の山登りに参加するようになりました。その後、その先輩の手ほどきを受け、本格的に登由を始めることになりました。

槍ヶ岳や穂高などに、春から夏にかけ登頂しました。夜行列車に乗り、木曹福島から御嶽山を経由して入山していました。夏などは、東京方面から沢山のハイカーがやってきます。カラフルなテントが林立します。

その後、広島に転勤となり、山からはすっかり遠ざかってしまいましたが、税務大学校広島研修所に勤務となり、又、由布岳や阿蘇山九重連山などに出かけるようになりました。湯布院温泉、法華院温泉などの秘境に巡り合うこともありそれもまた楽しみのひとつでした。

今から9年位前になるかと思います。勝手に入り込んできた一匹の茶トラの雄猫。当時は随分と控えめな感じでしたが、今では我が家に堂々と君臨しています。

獣医さんのお達しで猫のためを思うなら外に出してはいけませんとのこと。本来、猫は自由気ままな生き物。その結果、彼には大変なストレスがたまります。そのストレス解消のため、犬と同じように体にリードをつけ散歩に出かけます。犬のように歩きませんが、それでもとりあえずストレスは解消される様子です。

今では若い頃のように体力も気力も続きませんが、猫に引っ張られながら、散歩のお供をし、万歩計を身に着け、四季の移り変わりを体を感じながらの気ままな散策を楽しんでいます。そんなささやかな日々を、続けていきたいものだと思う今日この頃です。



昭和33年生まれ

**福井 政夫**  
昭和33年2月4日生

### これからも豊かな人生を

私は楽々園に税理士事務所を開設して、昨年で丸10年を迎えました。今年は開設一年目の新たな気持ちを思い返して、仕事に趣味に地域の人たちとの関りを深めていきたいと思っています。

私は日本が高度経済成長期の昭和33年に広島市牛田町（現東区牛田）で生まれました。随分とやんちゃな男の子だったそうです。今では考えられませんが。

そして、私の学生時代はフォーク全盛で私もフォークギターに夢中になり、友人とバンドを組んで学園祭のステージで歌ったりしました。同時にコンピューターにも興味があり、中学生のころ父親が仕事上必要となって購入したコンピューターに随分と関心を示しました。当時の機械はBASIC（ベイシック）というプログラム言語を自分で打ち込んでカセットテープに記憶させるという仕組みでしたから、この半世紀でコンピューターが誰でも扱える物になるとは全く想像が付きませんでした。

また、体を動かすことも大好きで高校生の頃から始めたバドミントンは今でも続けています。若い頃はスマッシュを打ちまくって力任せのプレースタイルでしたが、寄る年波には勝てずスマッシュを打ちまくるスタイルからレシーブで繋ぐスタイルに変えたところ、それが功を奏して今から6年前の2011年11月に仙台市で開催された『全日本シニアバドミントン大会』において、男子ダブルス50歳代の部で優勝をすることができました。2011年といえば東日本大震災の起きた年です。当初は開催地を変更するしかないと思われていましたが、運営スタッフの方々から不便はお掛けすると思うけれど自分たちの為にも運営させて欲しいとの声上がり予定通り試合は仙台市で開催する運びとなりました。私は今更ながらスタッフの皆さんに感謝と敬意を表します。私が優勝できたのもスタッフの皆さんのお陰だと思っています。

これまで私を支えてくれた多くの方々へ感謝しながら今後も仕事や趣味を通して多くの方と繋がっていき豊かな人生を歩んでいきたいと思っています。

## ❀ 新春特集 年男・年女のひとこと ❀



昭和33年生まれ

**田尾 芳子**  
昭和33年6月6日生

### 「干支に想う」

還暦を迎える年ということなので、せっかくなので来し方行く末に思いを馳せてみたいと思います。

来た道を思えば、まずはよくぞ大きな事件・事故に遭うことなく過ごしてきたとただただ感謝するばかりです。置かれた場所で咲くはずが、根っこの張り具合も怪しいままにこの年を迎えることになりました。若干心苦しくはありますが、決して不本意な道ではなく、その都度出会った方々から様々な恵みを頂き幸せに過ごせて来たと思います。

行く末を思うとき、このやっかいなよそ見しがちな性質が功を奏して、歳を忘れてずっと老人の初心者でいられるのではないかと妄想は膨らみます。

年を経て行くと、その容貌は「鬼」か「仏」の二つに分かれて行くと聞きました。出来ることなら「仏」顔に変化していくことを希望しますが、己の気性を省みればそう甘いことも期待できません。ならば、せめてこの記念すべき年から作戦を立て遂行していこうではありませんか。一日の終わりに今日の楽しかった事・嬉しかったことを想いながら眠りにつくとよい睡眠が取れるそうです。逆に、にっこりすれば脳は楽しいことがあったと誤解するようです。なんにしても、笑顔は「仏」顔には有効そうです。試してみる価値はありそうです。

しかし、「鬼」顔が嫌かと聞かれれば、そうでもない様な気がします。正直で潔いともいえます。あいまいな笑顔で存在感薄く生きているより濃い生き方かもしれません。

干支がもう一回りする時、私は何をしているのでしょうか。どんな顔をしているのでしょうか。もし支部だよりに寄稿するチャンスがあれば、途中経過を報告することが出来ると思います。その時まで、すこやかでありますように。



昭和33年生まれ

**酒井 龍夫**  
昭和33年8月14日生

### 還暦を迎えて

早いもので今年は還暦を迎えることとなりました。昔は還暦というと長命でめでたいことだったのでしょうが、現在では80歳、90歳の方もたくさんおられまだまだ若い部類に入るのかもしれませんが。

そうはいつても頭の回転は悪くなり税制改正についていくのがやっとなですし、50歳過ぎ辺りから体の方も変調を感じることも多く、食の好み、趣味嗜好も変わってきたように感じています。

現在は食においてはいいものを少量味わいたいと思うようになっていきますし、趣味も城や神社仏閣巡り、温泉にゆっくり浸かるなど歴史や伝統、自然に触れることなどに喜びを感じるようになっていきます。

伝統とは一般に人間の行動、発言、思考を支える歴史的に培われてきた制度や慣習、価値観のことと言われますが、このようなものに興味を感じるようになったのも60年間の人生を積み重ねてきたことと無関係とは思えません。

次の年男くらいまでは仕事をしたいと思っていますが、そのためには絶え間ない勉強が必要ですし、城の急な階段を上るためには体力が必要です。

また、温泉巡りをするためには資力も必要となります。これらのために還暦を機に決意を新たにしているところです。

時代はITをはじめ日々急速に変化していますが、社会の変革についていくためにも、伝統のみならず新しいものを取り入れながら色々なことにチャレンジして行こうと思っています。

さしあたってはガラケーからスマホデビューを果たしその第一歩としたいと考えています。

## 新春特集 年男・年女のひとこと



昭和33年生まれ

**藤本 邦彦**  
昭和33年10月1日生

### 新春雑感

明けましておめでとうございます。これで都合三回目の年男原稿依頼がありまして、我ながら時が過ぎるものは早いものだなと実感しております。

還暦→定年退職→楽隠居と連想ゲームのように昔は考えていましたが、今はそんなことを思う人はどこにもいませんよね。還暦→年金もらえず→ずっと現役。べつに働くのが嫌なわけではありませんけど、税制がこう複雑に毎年変わると、年金があろうが無かろうが、自らの能力の限界を悟る日も近いのではと覚悟しています。

還暦を迎える歳になっても、趣味らしいものは何もなく、好きなことといえば本を読むことくらいでしょうか。最近では藤沢周平をよく読みます。「たそがれ清兵衛」とか「蟬しぐれ」などが有名ですが、最近読んだ「三屋清左衛門残日録」というのもなかなか味わい深いものでした。清左衛門は52歳で城勤めを終えて、息子に家督を相続させ隠居しました。早く退きたいと思って隠居を心待ちにしていたのに、いざ隠居してみると、開放感どころか世間から隔絶されてしまったような感覚に襲われます。朝起きて、まず今日は何をしようかということから考えねばならないのです。しかし清左衛門は有能であったため、しばらくすると隠居している者でしかできないような仕事や相談事が舞い込んできます。若い者の手柄になるように事を終えて、自らは決して目立たない。たまに切り合いになっても、脇差一本で相手をやっつけてしまう。格好いいでしょう。さながら税理士であれば、いつもは昼行灯ですが、何か問題が起これば、違う観点からの的確なアドバイスを若い者に授ける。税務署と揉めても、チラッと脇差を抜いてすごんで黙らせる。(これは無理かな)

若い頃、年長者に説教されると、この年寄り風情が!!、と心の中で毒づいていましたが、自らが還暦を迎えようとは。天に唾をするようなものでしたね。まだ当分は現役で働かなければならない状況にはありますが、還暦を迎えたことを自覚して、いずれは三屋清左衛門のように、静かに生きながらも、時には若い者に頼られるようなご隠居さんになりたいと思います。



昭和33年生まれ

**山本 裕子**  
昭和33年10月16日生

### 「還暦に思うこと」

還暦といえば満六十歳のことですが、そもそも何なのかと思い、検索してみました。干支は十干と十二支の組合せで六十通りあり、満六十歳で生まれた時の干支に還るということだそうです。私の子供のころ六十歳の人という何でも知っていてまわりに一目置かれる存在というイメージでした。今の自分とはという何も知らず、いざとなると何もできずにおろおろするばかりで、どうにも情ない状態です。平均寿命が八十歳代になった今、還暦は晩年とは言えなくなりましたが、自分の原点に還ってこれからを考えるいい機会なのかもしれません。

ここ2~30年間のIT関連の進歩はめざましく、私たちの業務形態もずいぶん変わりました。便利になり、効率アップして短時間で処理できるようになったのは事実ですし、それに助けられています。一方でパソコン、スマホやタブレットに頼り切って生きていることが時々恐ろしくなります。電話番号は覚えられないし、漢字は書けない、わからないことがあればすぐに検索して、ああなるほどと、その時は納得してもすぐに忘れて、あれは何だった?となります。機器に不具合が生じた時は完全にお手上げで業務は一時ストップです。万一、大規模なシステム障害など起きたらと思うとぞっとします。

今さら便利なものに背を向けて生きていくのは難しいのですが、時には敢えて離れてみることも必要かもしれません。これからは不便を楽しむということを少しずつ実践してみようと思います。

というわけで、手始めにこの原稿は四百字詰め原稿用紙に書いてみました。もちろん、消せるボールペンを使って。

## 新春特集 年男・年女のひとこと



昭和45年生まれ

**稲積 博則**  
昭和45年4月25日生

### 新年の抱負

今年で4回目の年男を迎える年となった。40歳を過ぎた頃から、歳をとる感覚がなくなっているが、48歳となると50歳を間近であるという実感が湧いてきて、年齢を意識してしまう。

私には10歳の甥が1人いるが、いまだに「おじちゃん」と呼ばれるのに抵抗があり、「お兄ちゃんと呼びなさい」と言ってしまう。10歳の甥から見れば、50歳近い私はどう見ても「おじさん」に見えるのは仕方ない事なのだと、そろそろあきらめなければならぬのだろう。

例え外見は「おじさん」であったとしても、気持ちは常に若くありたい。自分にとって「気持ちが良い」とは、常に向上心を持ち、失敗を恐れずに目標に向かって挑戦していく気持ちを忘れないことである。40歳の時、海外留学を1度は経験したいという思いで、公認会計士協会の短期語学留学制度に応募し、アメリカに4か月間、語学留学に行った。その後、監査法人に勤務しながら、アメリカの公認会計士

試験にチャレンジし、2年半程度かけて資格を取得した。

現在挑戦しているのは、英検準1級の取得である。英検準1級の取得を目指したきっかけは、高校1年生の娘に近い将来大学入試の英語の試験に、英検などの外部試験が導入される方向であり、娘に英検準1級の取得を勧めたところ、「英検準1級を持っていない人に言われたくない」と言われたことであった。2017年11月の試験を目標に、8月から準備を進めたが、結果は数点足りずに1次試験で涙をのんだ。現在は前回の試験結果で点数が低かった分野を強化すべく、2018年1月の試験に向けて少しずつ準備をしているところである。私にとって英検準1級を取得すること自体はあまり意味がないことなのかもしれないが、挑戦したいと思う気持ちが続くまでは、何歳になっても挑戦を続けたいと思っている。これまでは、自分の英語に対してのコンプレックスから、英語関係の挑戦が続いているが、英検準1級の資格取得後は、自分の趣味を見つけて、そこからいろいろな挑戦を続けて、実りある人生にしていきたい。

## 会員異動のお知らせ (敬称略・順不同)

### 1 入会

法人名	事務所所在地	電話番号	登録年月日
税理士法人 ファースト	〒731-5131 広島市佐伯区藤垂園3番8号	082-925-5500	平成29年11月15日

### 2 退会

該当なし

### 3 事務所住所変更

氏名	事務所所在地	電話番号	変更
伊藤 忠彰 <small>いとう ただあき</small>	〒731-5131 広島市佐伯区藤垂園3番8号 税理士法人 ファースト内	082-925-5500	税理士法人設立 代表社員
木村 守孝 <small>きむら もりたか</small>	〒731-5131 広島市佐伯区藤垂園3番8号 税理士法人 ファースト内	082-925-5500	税理士法人設立 社員

### 4 転出

氏名	変更	移転日
坂見 聖二 <small>さかみ せいじ</small>	海田支部へ転出	平成29年11月1日



## 支部臨時総会

日 時：平成29年12月7日(木) 午後3時50分～午後5時00分

場 所：広島サンプラザ

会員の出席状況：出席66名 / 会員総数108名

議 長：佐々木 茂会員

議事録署名人：吉原 大次郎会員 浦 信一会員

議 題

第1号議案 平成29年度上半期の各部の活動状況及び予算の執行状況についての報告

廿日市支部事務局設置検討委員会からの中間報告

藤本 邦彦委員長は、同委員会で検討した結果、当支部が広島地区支部連絡協議会（以下、「地区連」）へ加入することが可能であると結論した旨を報告しました。

質疑応答

Q1 地区連は、当支部の加入を受け入れてくれますか。

A 藤本委員長

10月に正副支部長会があり、広島東・広島西支部長に打診したところ、喜んで受け入れると言われました。地区連は、現在、女性職員2名の体制で、当支部が加入しても増員なしで対処できるそうです。したがって、地区連加入の支部が負担する人件費が上昇することはないそうです。

Q2 地区連に加入した場合、支部長や役員の仕事の中身はどう変わりますか。その対比の説明をお願いします。

A 星野支部長

支部長の総会・役員会資料等の作成事務負担は軽くなります。また、支部の各部の改廃により役員数と予算が減少します。しかし、正副支部長は地区連の会議への出席が増えます。さらに、地区連の総務、研修、広報、厚生各委員会へ役員を派遣しますので、その役員の方は仕事が増えます。しかし、それは常時就いていなければならない仕事ではないと思います。今度の定期総会までに、地区連に加入した場合のシミュレーションを行い、支部長や役員の仕事の中身がどう変わるか対比表を作成します。

Q3 地区連に加入した後、都合が悪くなったとき、元に戻れますか。予想されてないことが起こるかもしれません。

A 星野支部長

確認します。

Q4 地区連が県西連と重複しているように思います。

A 星野支部長

両者は異なり、支部の運営事務をお任せしようとするのが地区連です。その違いをご理解いただける書面の作成を検討します。

Q5 支部独自の事務局を持っている呉支部や西条支部は、どう運営していますか。

A 星野支部長

呉支部は事務局に一人人員を置き、支部会費4万2千円（28年4月現在）で運営されています。西条支部は支部長が事務をされ、会費1万5千円（同）で運営されています。なお、西条支部の支部長は、

廿日市支部が地区連に加入するのであれば、自分も地区連加入を検討してみたいと話されていました。

Q6 地区連の研修は当支部の会員も受講することが望まれます。

A 藤本委員長

スケールメリットから質の高い研修を会員が受講できるとともに、特に若い会員の方は、他支部の若い会員と知り合うことが出来、いろいろ学べると思います。

Q7 地区連に加入しても当支部独自で部を持てるのなら、他支部は独自の部をどのように組み立てているのでしょうか。

A 藤本委員長

地区連の広報では、年4回の広報誌を作成しています。それにより、広島西支部は、単独の広報誌はないそうです。地区連の厚生では、宇品等の花火大会で船を出したり、ソフトボール大会や健康診断をするそうです。他方、地区連加入の各支部独自で旅行に行っていることも聞いています。わかる範囲で他支部の活動状況を調べて、支部会員にお知らせします。

星野支部長からのお願い

事務負担が大きいと、支部長の成り手がいない実情があり、その打開策として地区連加入を支部会員の皆さんにご検討いただいております。

私の任期を考慮して、本年(平成30年)6月の定時総会で地区連へ加入するか否かを決議したいと思います。

それまで半年ありますから、支部会員の皆さんにさらにご検討いただき、ご意見があれば支部長までご連絡願います。

[研修会] 当日開催された研修会は、次のとおりです。

講師：広島国税局 総務部 総務課 税理士専門官 松本 博英様

テーマ 「税理士法」

講師：広島国税局 課税第二部 消費税課 消費税課長 瀧口 信雄様

テーマ 「消費税軽減税率制度」

ありがとうございました。





## 支部旅行同好会 観光記

### ハロン湾とハノイ4日間

11月1日から4日にかけて行われた旅行部の旅行に参加しました。昨年の旅行には参加できなかったため、2年ぶりの旅行となります。行先はベトナム。今まで行ったことの無い国であったので、ドキドキしながらの参加となりました。

初日は広島空港から台湾で乗継ぎをし、ハノイ空港へ。そのままバスで翌日の観光地ハロンへの移動。まず驚いたのが、バイク（原付）の多さと交通量、そして運転マナー。約3時間のバスでの移動でしたが、クラクションが鳴りやむことのない大変アグレッシブな移動を体験し、ホテルへの到着となりました。

2日目は、私自身が楽しみにしていた、世界遺産にも指定されているハロン湾のクルーズ観光。チャーター船でハロン



ハロン湾

湾を巡り、途中で島の中全部が鍾乳洞のティエンクン洞を観光。その後船内での海鮮料理を楽しみました。船での移動中に漁師が海賊の様に船を乗りつけシャコ、牡蠣などを販売しにくる事にはビックリしましたが（笑）。クルーズ後また3時間かけての地獄のバス移動でハノイへ戻り2日目は終了。

3日目は、ハノイ市内の観光。まずベトナム建国の父ホーチミンが眠る「ホーチミン廟」で交替式を見



ハロン湾クルーズ

学。その後「一柱寺」などを観光。ここで私がある事件に遭遇しましたが、ちょっと文章に残すのは恥ずかしいので、興味のある方には別の機会でお話したいと思います。その後旧市街地を散策。ガイドさんの先導で横一列になりバイク、車の行き交っている交通量のある信号のない道路を横断するという、もう一生体験できないであろう貴重な経験をし、陶芸の街「バッチャン村」での工

房見学を経て、3日目の観光は終了となりました。

最終日は、広島空港への帰路となり、無事空港へ到着、解散となりました。

ベトナムという国は、旅行する前までは社会主義の国だと思っていましたが、ガイドさんの話では、現在は自由主義経済を取り入れており、街中でもベンツ、BMWなどの高級外車もかなり見かけました。また交通量の7割から8割位がバイクでしたが、バイクには100%の税金が掛けられて購入するには約20万円かかるとの話でした。また、過去の戦争の影響により人口の80%を40歳以下が占めると言われ、日本の高度成長期を思わせる活気のある街並みが印象に残りました。10年後、20年後には国自体がかなり成長していると思われるので、機会があればまた訪れてみたいと思います。

文：江口 竜哉



ハノイ市内観光（横断直前）

## 四コマ漫画



## 編集後記

犬は多産の象徴だそうです。今年は成年なので、租税教室の講師にも多くの支部会員が参加されるようお願い申し上げます。

風邪をひかないように注意して、確定申告期を乗り切りましょう。

田尾 幸二



ベトナムで買った犬の刺繍